

# Hem21 NEWS

公益財団法人  
ひょうご震災記念21世紀研究機構  
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **30** 平成23年  
(2011) 11月

## CONTENTS

- ①～② 兵庫自治学会研究発表大会を開催
- ③～④ 日本企業のグローバル人材戦略
- ⑤ 情報ひろば
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター  
MIRAI

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

10月22日、「新しい地方自治に向けて」を大会テーマとして、兵庫自治学会研究発表大会が兵庫県立大学神戸学園都市キャンパスで開催されました。午前には基調提案・パネルディスカッション、午後からは5つの分科会に分かれ会員等による研究発表があり、約220人が参加。未曾有の広域災害となった東日本大震災を契機に、地域を超えた行政、NPO、住民のさまざまな支援や関西広域連合による支援など、全国的に新しい取り組みが活発化するなか、近い将来の発生が危惧される東海・東南海・南海地震といった広域巨大災害への対応も視野に入れ、よりよき地域社会を創造するために、多様な主体による新しいパートナーシップの視点から、これからの新しい地方自治に向けた課題と展望について、議論を深め、考えました。

開会にあたり金澤和夫兵庫県副知事から来賓あいさつがあり、自治体職員が公務に従事しながら熱心な研究・交流活動を行っていることに対し激励されました。また、東日本大震災が突き付けた防災・減災のまちづくりや地域の安全安心の確保、さらにはエネルギー問題や農林水産業の担い手、産業空洞化と

いった行政が直面する課題への解決策を見いだすため、さまざまな立場の方々の参画がますます重要になってくることから、幅広いネットワークづくりや地域課題への取り組みを支援する兵庫自治学会の果たす役割への期待を述べられました。



金澤副知事

## 平成22年度研究発表大会 優秀発表者・特別賞受賞者紹介

昨年度の研究発表大会分科会での優秀発表者(4人)・特別賞受賞者(3人)をご紹介します。

## 兵庫自治学会研究発表大会を開催



左より長谷氏(22年度優秀発表者)、村上氏(同)、  
稲葉氏(22年度特別賞)、のんびりクラブ・田村氏(同)

## 全体会 (基調提案・パネルディスカッション)

午前中の全体会では、「東日本大震災復興支援から見てきた『新しい公』及び行政の広域連携について」を副題に、関西学院大学総合政策学部教授・災害復興制度研究所所長の室崎益輝氏から基調提案をいただいた後、筑波大学副学長(国際担当)・人文社会科学研究科教授の辻中豊氏、関西広域連合本部事務局長(兵庫県参事)の中塚則男氏から報告をいただき、当学会代表運営委員の山下淳氏(関西学院大学法学部教授)をコーディネーターに、意見交換を行いました。

行政やNPO、コミュニティ、企業、住民ボランティアに技術・専門家組織を加えた多様な担い手の有機的な連携を探るとともに、関西広域連合によるカウンターパート式支援の取り組みをはじめとする自治体間の新たな連携を進め、行政の知見を生かすことが「新しい公」の役割を考えることにつながっていくといった内容は、行政関係者を中心とした参加者にこれからの地方行政が担うべき役割について示唆を与えるものでした。



全体会の様子

## 分科会

午後からは5つの分科会に分かれ、24人の会員等(グループ含む)が日ごろの研究成果を発表し、活発な議論が交わされました。学識者、県の幹部がコーディネーター等を務め、研究活動を深めるためのアドバイスをを行うとともに、テーマに沿った問題提起を行い、会場参加者を含めたディスカッションを行うなど、今後の発表者・参加者の主体的な政策形成活動につながるよう支援しました。行政職員のほか、NPO関係者や地域で活動を続けておられる方、大学院生などからも発表があるなど、地域課題や行政政策への関心の高さと広がりが感じられました。



分科会の様子

また、兵庫自治学会の資金助成を受けて研究等に取り組んだグループからの研究報告もあり、成果を発信する場としても有意義なものとなりました。

分科会テーマ	コーディネーター (学識者)	アドバイザー (行政幹部職員)
<b>第1分科会「防災・安全安心 ～住民の安全安心なくらしのため～」</b>	同志社大学社会学部 教授 立木 茂雄	兵庫県企画県民部 災害対策局長 松原 浩二
<b>第2分科会「環境・農業 ～新技術による持続可能な環境づくり～」</b>	神戸国際大学経済学部 教授 八木 俊輔	兵庫県農政環境部 農政企画局長 北川 稔男 兵庫県農政環境部 環境創造局長 栢尾 隆
<b>第3分科会「地域づくり ～個性を生かした都市、中山間地域の活性化～」</b>	兵庫県立大学政策科学研究所 所長・教授 加藤 恵正	兵庫県企画県民部 ビジョン局長 畑 正夫
<b>第4分科会「協働 ～住民と行政、様々な連携のあり方～」</b>	関西学院大学法学部 教授 山下 淳	兵庫県企画県民部 県民文化局長 梅谷 順子
<b>第5分科会「教育・福祉 ～ユニバーサル社会の実現をめざして～」</b>	神戸親和女子大学発達教育学部 教授 成清 美治	兵庫県健康福祉部 社会福祉局長 山本 嘉彦

## 交流会

分科会終了後、大学食堂にて交流会が開催され、学会役員、分科会コーディネーター・アドバイザー、発表者、一般参加者等が参加し、意見交換を行うなどネットワークづくりにつながる交流を深めました。

## 資料コーナー

会員等からの各種イベント情報や取り組み内容を紹介する資料コーナーを設置し、参加者に広報しました。

※大会の詳細は兵庫自治学会ホームページ(<http://hapsa.net/announcement.html>)からご覧いただけます。

兵庫自治学会では、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指しています。現在の会員数は約1,000人です。自らの視野を広げるため、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか？

### ■会員になるには

年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人

### ○申し込み・問い合わせ

兵庫自治学会事務局((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 学術交流センター内)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館6階

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122

Eメール [gakujutsu@dri.ne.jp](mailto:gakujutsu@dri.ne.jp) <http://hapsa.net/>

# 日本企業の グローバル人材戦略

主任研究員 羽瀧貴司



日本企業は世界中でビジネスを展開するようになり、人材戦略もよりグローバルなものになってきた。本社のグローバル化を推し進めるために外国人人材を雇用する一方で、経営の現地化を推し進めるための現地採用も積極的に行っている。求職者側から見ても、国境を超える求職ニーズが高まっている。このような就職事情を反映して、日本企業と人材をクロスボーダーでマッチングさせるビジネスがある。

日本企業向けの人材紹介ビジネスを行うA社グローバル事業部がその代表例である。A社は人材派遣を行う会社であるが、同社のグローバル事業部は、日本企業に外国人人材や海外拠点で採用する人材の紹介ビジネスを行っている。A社は、1980年代に香港に海外拠点を設立して以来、現在では中国、インド、シンガポール、北米、欧州、ブラジル、インドネシアなど全世界に拠点を持つ。海外拠点の資源を活用して、クロスボーダーの人材紹介ビジネスを始めたのは2004年からである。登録は在住地ベースで行っているため、例えば中国の居住者は国籍に関わらず中国拠点に登録をする。同社に登録すれば、たとえ日本に居住している留学生でも帰国することなく、母国に進出している日系企業への求職活動をすることができるのである。A社グローバル事業部を例に、日本企業のグローバルな人材獲得の事情をのぞいてみよう。

## 1 登録と雇用の状況

累計登録者は30万人を超え、そのうち日本人がおおよそ10万人、残り約20万人が外国人となっている。登録者は東京在住者が圧倒的に多く、登録者の年齢層の中心は20～30代である。IT関連の職種は比較的若年層が多いが、海外で工場立ち上げなどに関わる仕事は経験知識が求められるために40～50代の年齢層の人が多い。男性は技術・営業、女性は管理系の仕事が多い。

紹介実績、業種は大半が製造業である。製造業の職種は管理・営業・技術の全職種を扱っているが、工場作業員の紹介は行っていない。登録者の学歴は大卒が中

心であるが、高卒や専門学校卒の人であっても、技術系の職務経験知識が豊富な人に対しては海外からの求人が多い。

顧客企業は、東京に本社を置く企業がおおよそ8割を占め、残りの2割は大阪に本社を置く企業である。業種別に地域の特徴を見ると、大阪は大手家電メーカーの本社が立地していることもあって電気・機械・電子などが多い。一方、東京に本社を置く企業では、IT関連企業が北米など先進国に子会社を設立するケースが増えており、IT関連の職種への紹介が増えてきている。

## 2 海外拠点の労働市場の特徴

人材紹介ビジネスへのニーズが急激に高まってきているアジアを中心に、日本企業の海外拠点での人材紹介の特徴について紹介しよう。

中国は、もともと工場立ち上げサポートのために進出をしたが、ここ4、5年は販売会社を立ち上げて中国内地での販売を行う製造企業が増えたので、営業職への需要が増えてきている。また、ヤマダ電機、ユニクロ、外食産業の進出に代表されるように流通・小売・サービスの分野での需要も増えている。

インドはデリーに日系企業メーカーが多く進出している。2011年にはチェンナイ、ムンバイ、バンガロールの3支店を同時開業した。最近では、中国以上に「インド」をキーワードとした問い合わせが増えている。

シンガポールは東南アジアの統括拠点としての位置付けが高まってきている。日系企業は、シンガポールに販売会社のヘッドオフィスやリクルーティングセンターを設置して、ここからタイ、インドネシア、マレーシアなどを統括している。業種は金融、証券、商社が多い。

なお、北米では、人材紹介ビジネスはすでに成熟市場となっており、人材紹介よりも、給与計算などのアウトソーシング事業へのニーズが高まっている。また欧州では経営の現地化が進んでいるため、日本企業からのニーズは高くない。



このようにアジアの新興国の成長に伴って、製造業に限らずさまざまな業種でグローバルな人材へのニーズが高まってきている。外国人の日本企業への就労が増加し、また、海外市場における日本人の熟練技術者などの職務経験豊富な労働者への需要が高まってきている。

一方で、最近の円高を契機として日本企業のアジアを中心とする海外への生産拠点移転が加速化していることにより、国内労働市場の縮小が懸念されている。しかし、海外拠点での労働需要とともに、相対的にはいまだに小さいとはいえ、アジア諸国から国内に進出してくる

外資企業における労働需要も拡大しつつある。例えば、神戸市に進出している某外資系企業の進出理由の一つが、日本国内でリストラされた優秀な技術者を比較的安い賃金で獲得できることにあるという。

不可逆的なグローバル化の流れが加速する中、個人も地域もこれまでとは異なるアイデアやノウハウで対応していく必要があるだろう。兵庫県においても、地域の活性化を考える上で、いかに外資企業の誘致を推し進め、外国人人材や日本人技術者等を活用していくのかが、無視できない課題となっているのである。

## HAT神戸 掲示板

### 兵庫県立美術館

#### 絵筆に託す愛と祈り 生誕100年 伊藤清永展

兵庫県出石町(現豊岡市)生まれ、文化勲章を受章した洋画家・伊藤清永(1911-2001)の没後初の回顧展。「裸婦」をテーマに正統かつアカデミックな具象絵画を追及し続けた画業を初期から晩年までの代表作でたどり着く。



伊藤清永(室内) 1948年 同館蔵

■会期=12月10日(土)~平成24年1月22日(日)  
■観覧料=一般1,200(1,000)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上600円(500)円、中学生以下無料

※( )内は20名以上の団体割引料金  
※障害のある方とその介護の方1名は各当日料金の半額(65歳以上除く)

#### 2011年度コレクション展Ⅲ

#### コレクション名品選 美術の中の“わたし” (同時開催)小企画 安井仲治の位置

近年制作された作品を中心に、画家の自画像など、今まであまり展示されなかった油彩画や版画、写真や彫刻などを1階と2階の常設展示室で展覧し、同館のコレクションの隠れた魅力を紹介いたします。



林重義 (夜の自画像)

また、日本を代表する写真家・安井仲治(1903-1942)のポートフォリオが昨年度に同館に収蔵されたのを機に、以前から収蔵している彼のヴィンテージプリントと併せて展示し、この稀有な写真家をあらためて検証します。

■会期=11月19日(土)~平成24年3月11日(日)  
■観覧料=一般500(400)(300)円、大学生400(320)(240)円、高校生・65歳以上250(200)(150)円、中学生以下無料

※( )内は20名以上の団体割引料金、( )内は特別展とのセット割引料金  
※障害のある方とその介護の方1名は各当日料金の半額(65歳以上除く)

#### 2011年度コレクション展Ⅲ 関連事業開催

#### 「安井仲治の位置」関連イベント 学芸員による解説会「仲治の本棚」

講師:速水豊(同館学芸員) + 小林公(同館学芸員)  
■日時=平成24年2月5日(日)14時~15時30分  
■会場=レクチャールーム(定員100人)  
■参加費=無料 ※観覧券必要

#### 学芸員によるギャラリー・トーク

①講師:小林公(同館学芸員)  
■日時=12月17日(土)16時~(約45分)  
■会場=常設展示室6(小企画「安井仲治の位置」会場)  
②講師:相良周作(同館学芸員)  
■日時=平成24年2月24日(土)16時~(約45分)  
■会場=1階常設展示室(「美術の中の“わたし”」会場)  
■参加費=①②とも無料 ※観覧券必要

◎休館日=月曜(1月9日は開館、翌10日が休館)、12月31日、1月1日、2日  
◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)  
※入場は閉館の30分前まで  
TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

### JICA兵庫

#### ◆写真家 渋谷 敦志による体験談の伝え方講座

JICAボランティアの体験を学校の教室などに届ける「JICA国際協力出前講座」。どのようにすれば「よりわかりやすく、国際協力の必要性を伝えられるか。」「自分らしく活動体験を語れるか。」を学ぶため、フォトジャーナリスト渋谷氏をお迎えし、「カメラで伝える技術のコツ」をお伝えします。ふるってご参加ください!

※JICAボランティア経験者が主対象ですが、興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

■日程=12月3日(土)  
■時間=13時30分から15時30分まで  
■参加費=無料  
※事前申し込み必要



Photo by Atsushi Shibuya

#### ◆イザカエル大キャラバン! in サンボーホール

防災教育・防災啓発に取り組む団体がサンボーホールに集まり、震災の記憶と教訓を次世代の子供たちに伝える様々なプログラムを実施します。「楽しみながら防災を学ぶ」教育プログラム「イザカエルキャラバン」では、防災訓練に参加してポイントを貯めることで、おもちゃと交換することができます。お家で眠っているおもちゃを持って、サンボーホールに集まってください!

■日程=1月29日(日)  
■時間=13時から16時まで  
■場所=神戸サンボーホール(神戸市中央区浜辺通5-1-14)

#### ◆JICA兵庫食堂のご案内

JICA兵庫1階の食堂(カフェテリア方式)は、研修員用の食堂ですが、どなたでも利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しみ、子供椅子を6脚用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理(飲物付¥700)は、12月、マラウイ料理、1月、東北復興支援メニューです。ぜひ、お越しください!



写真は10月のウガンダ料理

メニューの詳細と写真については、こちら→<http://www.jica.go.jp/hyogo/office/restaurant/index.html>  
■営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで  
※各終了30分前ラストオーダー

#### ◆JICAプラザ兵庫(広報展示室)のご案内

東日本大震災からもうすぐ1年。JICAプラザ兵庫(広報展示室)では、被災地に届けた世界からの応援メッセージやJICAの取組みを紹介します。

■日程=1月13日(金)から3月25日(日)までの毎日  
■時間=11時から18時まで(無休/入場無料)

#### ◎申し込み・問い合わせ

JICA兵庫(独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター)  
TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0342  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2  
Eメール [jicahic-event@jica.go.jp](mailto:jicahic-event@jica.go.jp) <http://www.jica.go.jp/hyogo/>

学術交流センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」  
第11号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確にとらえ、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。B5判約90ページ。12月発行予定。



■巻頭言

大震災からの創造的復興  
((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長 貝原俊民)

■特集

「東日本大震災からの復興を考える」

- 震災からの経済復興の課題とあり方 (一橋大学大学院経済学研究科・政策大学院教授 佐藤主光)
- 被災者支援法制の運用と課題 (大分大学教育福祉科学部准教授 山崎栄一)
- 震災復興とエネルギー政策 (京都大学大学院経済学研究科教授 植田和弘)
- 復興まちづくりの論点と今後の防災まちづくりへのインパクト (東京大学生産技術研究所准教授 加藤孝明)

■トピックス

- 21世紀文明シンポジウム  
「スーパー広域災害・スーパー都市災害と危機管理」(基調講演)  
((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼人と防災未来センター長 河田恵昭)
- 自治体災害対策全国会議(講演要旨)  
①宮城県知事 村井嘉浩  
②南三陸町長 佐藤 仁  
③関西学院大学総合政策学部教授 室崎益輝  
④関西広域連合長・兵庫県知事 井戸敏三  
⑤鼎談(五百旗頭真、室崎益輝、井戸敏三)
- 災害時のこころのケアの望ましいあり方とは (兵庫県こころのケアセンター 明石加代)

■調査報告

- 東日本大震災災害対応の現地支援報告(人と防災未来センター)
- 台風12号現地調査報告(人と防災未来センター)

▶発行=年2回

▶購読料=800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

●申し込み・問い合わせ

学術交流センター  
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122  
Eメール gakujuutsu@dri.ne.jp

兵庫県こころのケアセンター

平成23年度  
第2期「こころのケア」研修の受講生募集

兵庫県こころのケアセンターでは、「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「専門研修」と、「こころのケア」に関する知識や理解を深める「基礎研修」を実施しています。

1月から3月にかけて実施する研修の受講生を次のとおり募集します。

1.研修概要

区分	コース名	期間	定員	対象	受講料(資料代等)
専門研修	①対人支援職のためのセルフケア	1/19(木) 20(金) (2日間)	35人	保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者	2,500円
	②DV被害者のこころのケア	1/25(水) (1日間)	35人	母子自立支援員、女性問題相談員、女性相談員(婦人相談員)、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター(児童相談所)職員等DV被害者相談支援関係職員	2,000円
	③児童虐待とこころのケア・セルフケア	2/16(木) 17(金) (2日間)	30人	こども家庭センター(児童相談所)・福祉事務所・保健所・保健センター等児童虐待関係職員、児童福祉施設職員	2,700円
	④医療・保健関係者のための業務ストレスの理解とケア	2/29(水) 3/1(木) (2日間)	35人	医療・保健関係等職員	2,500円
技術	⑤PTSD臨床診断	2/23(木) (1日間)	20人	精神科医、臨床心理士、保健師、精神保健福祉士等	2,500円
基礎研修	⑥「こころのケア」の基礎	2/3(金) (1日間)	80人	保健・医療・福祉・教育、司法・警察・消防関係職員	800円



2.申し込み方法

- 各コースとも先着順で受け付けます。受講申込書に必要事項を記入の上、郵送またはFAXで下記照会先までお送りください。
- 受講申込書は本センターホームページよりダウンロードできます。

3.研修会場・照会先

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
兵庫県こころのケアセンター  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)  
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017  
<http://www.j-hits.org/>

言葉を伝える

私に伝えた  
誰かのように

あなたの本を  
書いて  
みませんか?

小説、自伝、詩集などあなたがお書きになった原稿をご予算に応じた自費出版プランでご提案いたします。また、各企業の記念誌等の企画・プロデュースもいたしております。どうぞお気軽にご相談ください。

ISO14001  
当社の印刷センターはISO14001の認証を取得しています。  
新聞印刷及び各種商業印刷



株式会社 神戸新聞総合印刷 印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。  
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7 ☎078-362-7180 <http://www.kobepn-printing.co.jp/>

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷  
出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業



## 台風12号調査報告

台風12号によって紀伊半島では、総降水量が多い所で1,800ミリを超え、浸水被害に加えて土砂災害が起こり、道路被害や河道閉塞、孤立集落の発生という被害がありました。9月15日、紅谷昇平研究主幹、宇田川真之主任研究員の2人が、和歌山県田辺市役所、田辺市本宮地区、奈良県十津川村を訪問し、自治体やボランティアセンターの対応、浸水被害・道路被害の状況を調査しました。

道路が通行不能となったため物資輸送が課題となり、田辺市では、災害対策本部とは別に調達配給本部を設置し対応していました。また地域で独自に、崩落斜面にワイヤロープを渡して物資搬送する仕組みをつくった集落もありました。三重県、奈良県、和歌山県の県境地域が被災したため、災害対応で複数の県の連携が重要となった災害でした。最後に、被災者の方々にお見舞い申し上げ、一日も早い復旧・復興を心からお祈りいたします。



二津野ダムでの崖崩れ（十津川村桑畑）



ボランティアセンター（田辺市本宮地区）



ワイヤロープによる物資輸送の仕組み

## 南三陸町現地支援報告



町の中心、志津川市街地の被害状況

宮城県南三陸町では、震災復興計画素案が9月18日の復興計画策定会議にて承認され、議会で審議されているところです。人と防災未来センターでは、4月から同町役場に研究員を派遣して復興計画の策定のための支援を行ってきました。復興計画の策定をするための組織体制についてのアドバイスや、市民一人一人にまちづくりに関する意見を聞くための地域懇談会でのワークショップの参画、津波の避難行動に関する調査への助言、被害を受けた集落の高台移転に関する助言などを行ってきました。今後も、研究活動を通じて、土地利用や移転集落の合意形成支援などを引き続き行っていきます。



地域懇談会





## 「第14回ジャンボひまわりコンテスト」応募作品の展示

阪神・淡路大震災当時、「瓦礫のまちにひまわりを」というメッセージのもと、大量のヒマワリの種や苗が配られ、やがて夏になり咲き誇った花に、まちの人々は勇気をもらいました。そして、その活動を語り継ぐべく「ジャンボひまわりコンテスト」が誕生しました。

ヒマワリの背丈を競うコンテストとして開催されていますが、その他に、ヒマワリを育てた感想やエピソードに対しても表彰を行っています。

今春、東日本大震災という未曾有の災害が発生しましたが、その被災各地でも、ヒマワリを咲かせる活動が広がっているようです。今回のコンテストには、被災地である東北各地を含め全国から約100点の応募がありました。

10月4日から23日まで西館1階ロビーで開催され、多くの来館者が足を止めて見学する様子が印象的な展示会となりました。



展示の様子

## 平成23年度秋期 災害対策専門研修マネジメントコースの実施結果

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。当該コースは、災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的、実践的なカリキュラムに設計されています。これまでに、延べ4,000人以上の方々を受講され、全国の自治体等から高い評価を得ています。

また、3月11日の三陸沖を震源とする巨大地震と太平洋沿岸への大きな津波により発生した東日本大震災は、近代以降のわが国の歴史の中でも最大規模の人的被害を及ぼした地震津波災害となりました。多くの自治体職員が被災地支援に携わり、それぞれの地域においても災害対策本部の立ち上げや地域防災計画の見直しといった課題に直面することになり、当該研修のニーズはますます高まっています。

そこで、今回は特に、東日本大震災の災害対応や支援活動で来神できない受講希望者のニーズに応えるため、「震災特別枠」として講義資料の取得のみによる参加を受け入れることとしました。結果、受講者については、近畿地方を中心に、北は北海道から南は鹿児島県まで全国各地から参加があり、さらに毎年職員が参加される「リピーター団体」も着実に増えています。

研修終了後のアンケートにおいても、「毎年参加したい」「今までにない視点からの考え方があることが解り、当市の弱点等が見えてきたと感じた」「研修で得た様々な分野に関する情報や基本的な考え方は、実際の災害活動においても大いに役立つものばかりであり、大変有意義であった」「その時に何が必要かがイメージできるようになった」「人的ネットワークの形成、新しい知識の習得に大変役に立った」「本部長を補佐する立場としての心構えや使命感について、あらためて考える機会を持てたことが良かった」等好評を博しています。この研修を通じて、防災消防担当者等の全国的なネットワークが一層強まりました。

なお、12月には、災害対策専門研修「図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース」の実施を予定しています。



被災現地での「都市の復興概論」講義風景



「災害対策専門研修ワークショップ」演習風景



「災害対策専門研修 災害対応特論」講義風景

コース名	日程	参加人数	震災特別枠
エキスパートA	平成23年10月4日(火)～10月7日(金)	23人	1人
エキスパートB	平成23年10月18日(火)～10月21日(金)	25人	3人
アドバンスト／防災監・危機管理監	平成23年10月12日(水)～10月13日(木)	10人	2人
合計(延べ)		58人	6人

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

### 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

**開館時間** 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)  
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)  
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

#### 入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※( )は20人以上の団体料金  
 ※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

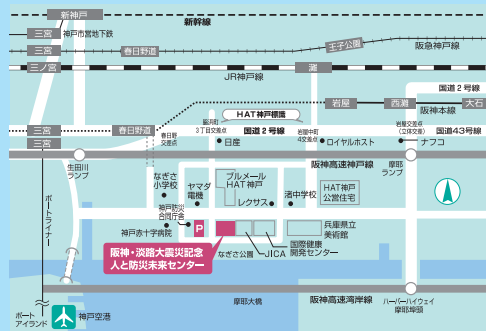
#### 休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日  
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休  
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

#### 交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
  - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
  - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
  - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
  - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



# 人と防災未来センター「友の会」活動報告

## 総会

9月6日、人と防災未来センターにて友の会総会が開催され、平成22年度決算、23年度予算等が可決されました。

議事では友の会をより大きなものにしていこうと活発な議論が交わされました。



総会の様子

## 施設見学会

10月9日、友の会行事として施設見学会を実施しました。今年は淡路島にある福良港津波防災ステーションを訪れました。この建物は発生が予想されている南海地震による津波への対策として建てられたもので、津波発生時の観光客の避難場所としても活用できる施設です。



制御室の見学

この日は学習室で津波についての講義や水の勢いの体感シミュレーションを体験したほか、福良港を監視している制御室の見学も行いました。

また、大鳴門橋記念館等にも立ち寄り、見学をしました。

なお、施設見学会はセンターの運営ボランティアの研修と合同で実施し、約60人での見学会となりました。



建物の前での説明。外壁は腐食を防ぐ特殊な錆(さび)で覆われています

## 神戸ふれあいフェスティバルの出演

10月15日、16日の両日、神戸のメリケンパークで開催された「神戸ふれあいフェスティバル」に、友の会の防災啓発パビリオンを出展しました。今年も、今年のイベントで好評を博した防災楽習迷路を実施しました。



多くの子どもたちがチャレンジ

初日は天候がいまひとつでしたが、2日目は爽やかな秋晴れに恵まれ、2日間で合わせて約1,000人の子どもたちが迷路にチャレンジしました。中には2日続けてチャレンジに来た子もいるなど、人気は上々で、特に16日は安全のために入場制限を行うほどのにぎわいとなりました。

これからも友の会では楽しみながら防災を学べる行事を展開していく予定です。



会場の様子



**Hem21 NEWS**  
vol.30

平成23年11月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)  
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部  
TEL 078-262-5580  
FAX 078-262-5587

●研究調査本部  
TEL 078-262-5570  
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター  
TEL 078-262-5050  
FAX 078-262-5055

●学術交流センター  
TEL 078-262-5713  
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010  
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・  
ご感想を機構までお寄せください